

上里町国民健康保険
データヘルス計画及び
中間評価（概要版）

令和3年3月

上里町

目次

第1章 上里町データヘルス計画について	2
1. データヘルス計画の中間評価について.....	2
第2章 上里町の現状	2
1. 基本情報	2
(1) 上里町の人口の推移.....	2
(2) 上里町国民健康保険の加入状況	3
2. 健康・医療情報等の分析.....	4
(1) 健康情報の分析	4
(2) 医療情報の分析	6
(3) 介護情報の分析	18
(4) 分析結果のまとめ	19
第3章 取組の考察.....	21
1. 各事業の評価、考察.....	21
2. 中間評価後の事業実施について.....	22
第4章 その他	25
1. データヘルス計画の評価・見直し.....	25
2. データヘルス計画の改定.....	25
3. 事業運営上の留意事項	25
4. 個人情報の保護	25

第1章 上里町データヘルス計画について

1. データヘルス計画の中間評価について

データヘルス計画は、「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21（第 2 次）」）に示された基本方針を踏まえるとともに、「上里町総合振興計画」、「上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「上里町健康づくり推進総合計画」及び「高齢者の医療の確保に関する法律」（昭和 57 年法律第 80 号）第 19 条第 1 項の規定により定める「上里町国民健康保険特定健康診査等実施計画」との整合性を図り、上里町では平成 28 年度にデータヘルス計画書を策定した。

現在は、取り組むべき健康課題に応じた保健事業を実施し、被保険者及び上里町全体の健康維持増進を図っているところである。各保健事業の実施状況や結果を確認するとともに、レセプトデータ、健診データを使用して分析することにより、データヘルス計画の中間評価を行う。また、分析の結果を踏まえ、保健事業の実施内容の見直しを行う。

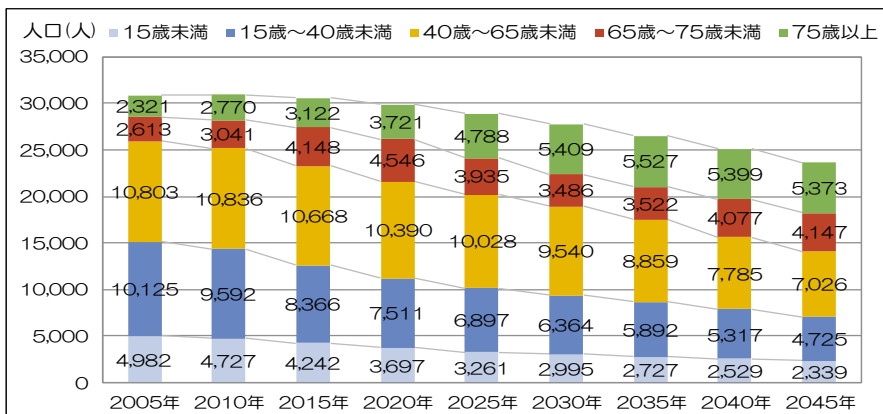
第2章 上里町の現状

1. 基本情報

(1) 上里町の人口の推移

■人口の推移

人口（人）

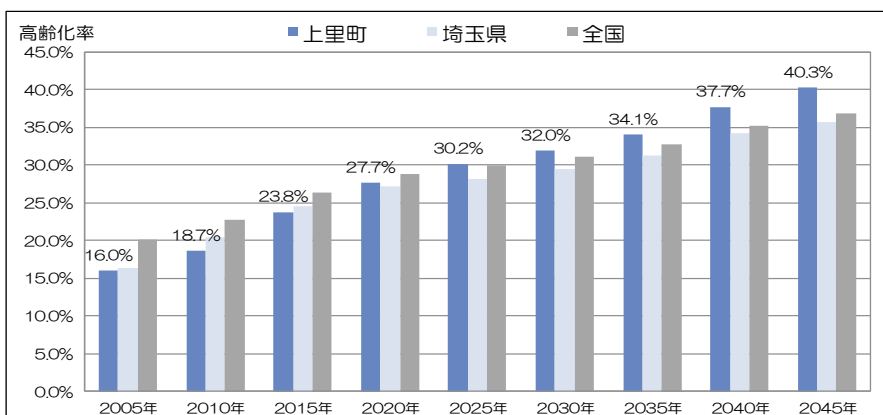


人口は減少傾向にあり、2045 年には 2 万 3,610 人になることが想定されており、2045 年には、町民の約 4 割が 65 歳以上になると考えられている。

※地域包括ケア「見える化」システム

「人口の推移」より

■高齢化率の推移



2005には16.0%だった高齢化率は、2045には40.3%に上昇することが予想されている。

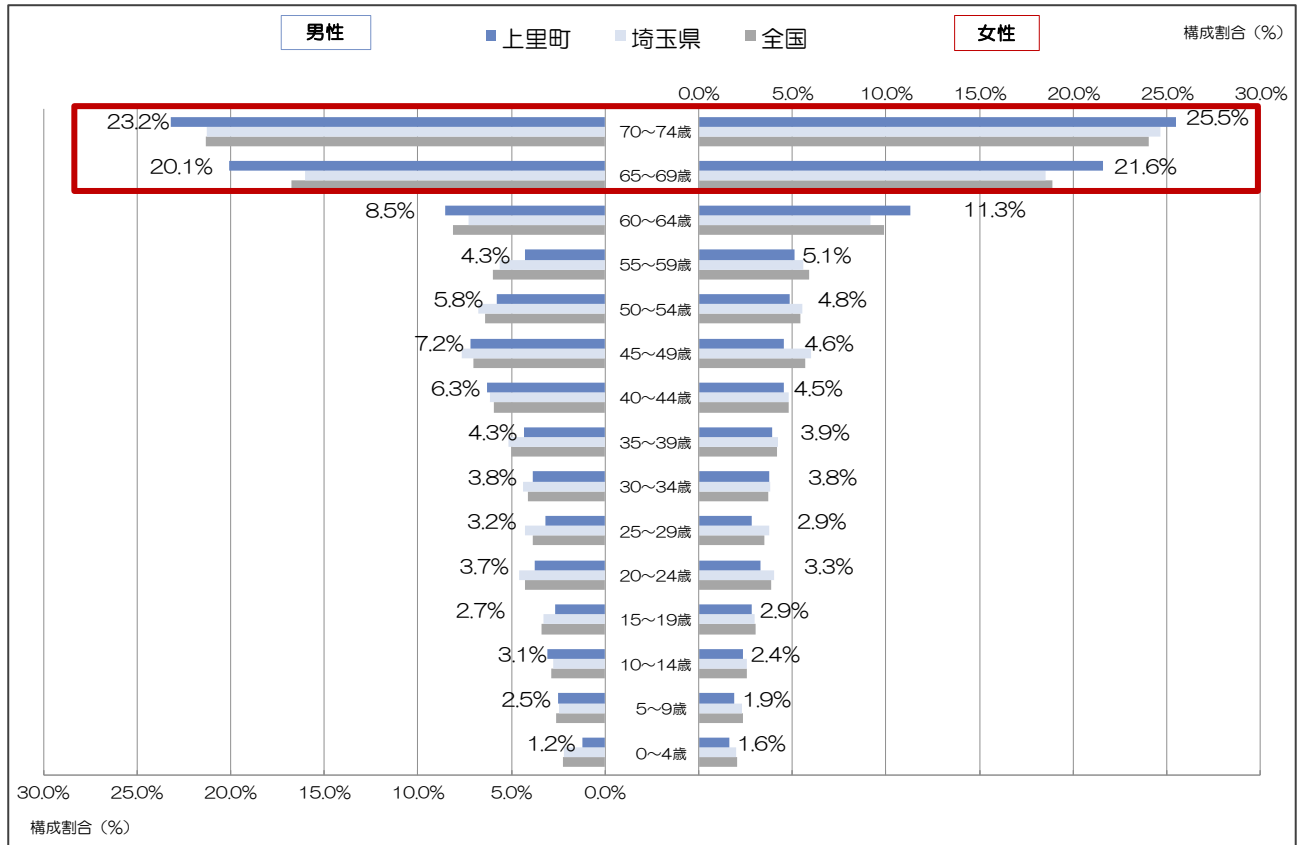
※地域包括ケア「見える化」システム

「人口の推移」より

(2) 上里町国民健康保険の加入状況

国民健康保険の加入者数は 7,459 人で、人口全体の 24.4%である。年齢階層別、男女別に構成割合をみると、男女ともに 65 歳以上の割合が 40%以上と高い。

■男女別・年齢階層別被保険者数構成割合



※ 国保データベース（KDB）システム 「人口及び被保険者の状況」より

主たる死因は「悪性新生物」「心臓病」「脳疾患」が全体の約 93%を占める。平成 28 年度のデータヘルス計画策定時に比べて全て割合が上昇している。

■主たる死因とその割合

疾病項目	上里町		埼玉県	全国
	人数	割合		
悪性新生物	72 人 (96 人)	39.3% (30.1%)	50.8%	49.9%
心臓病	56 人 (51 人)	30.6% (16.0%)	27.9%	27.4%
脳疾患	42 人 (20 人)	23.0% (6.3%)	13.2%	14.7%

※ 国保データベース（KDB）システム 「地域の全体像の把握」より

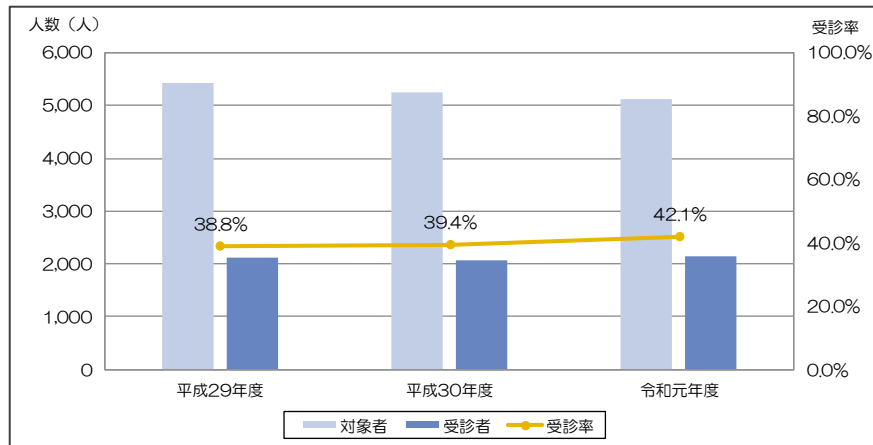
※ () 内は平成 28 年度のデータヘルス計画策定時の値

2. 健康・医療情報等の分析

(1) 健康情報の分析

① 特定健診受診率

■年度毎の特定健診受診率

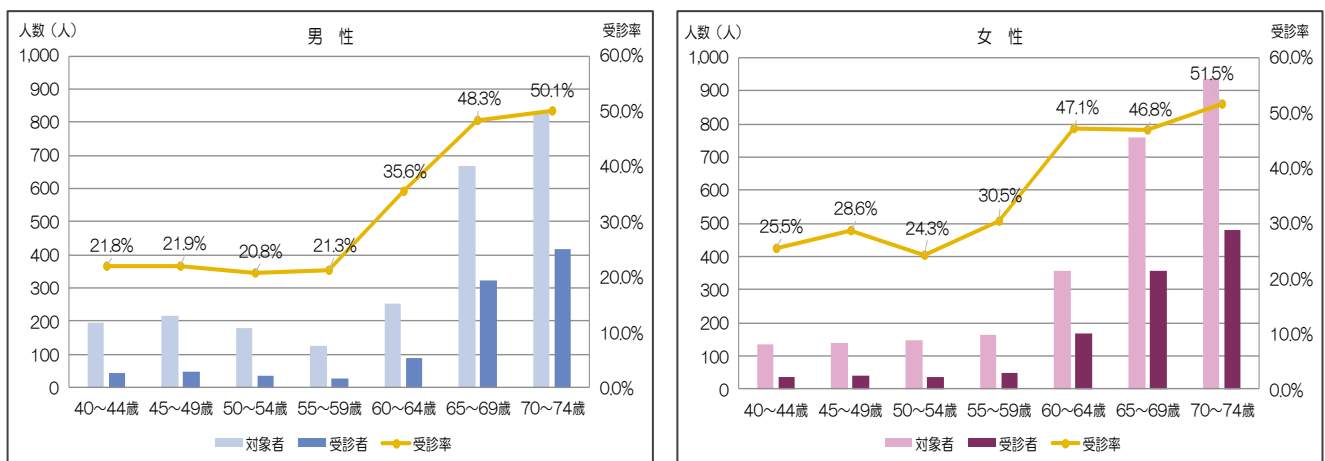


特定健康診査受診率は徐々に上昇しており令和元年度の受診率は42.1%だが、目標として定める受診者数 3,300 人、受診率 60%には達していない。

※特定健診等データ管理システム「特定健診・特定保健指導実施結果総括表」より

年齢階層別の受診状況をみると、男女とも 60 歳を過ぎると受診率が高くなる傾向がみられる。70 歳～74 歳の受診率は 50%を超えており、女性の方が受診者数・受診率ともに高い傾向にある。

■年齢階層別特定健康診査受診率（令和元年度）



※特定健診等データ管理システム 「特定健診・特定保健指導実施結果総括表」より

② 有所見者の割合

	男性						女性					
	40 歳～64 歳			65 歳～74 歳			40 歳～64 歳			65 歳～74 歳		
	上里町	埼玉県	全国	上里町	埼玉県	全国	上里町	埼玉県	全国	上里町	埼玉県	全国
BMI	39.8%	38.5%	37.6%	29.5%	29.9%	30.4%	19.3%	21.6%	20.6%	22.0%	22.1%	22.1%
HbA1c	52.3%	47.4%	46.0%	70.9%	65.0%	63.3%	54.1%	45.4%	43.8%	77.2%	64.3%	62.8%
収縮期血圧	38.8%	41.9%	39.0%	50.5%	55.2%	53.8%	31.6%	30.5%	28.2%	49.7%	51.8%	49.6%
LDL コレステロール	55.0%	55.1%	53.6%	47.3%	47.5%	45.6%	57.2%	57.6%	56.5%	58.2%	60.1%	58.0%

※国保データベース（KDB）システム「健診有所見者状況」について、地方自治体における生活習慣病関連の健康課題把握のための参考データ・ツール集を用いて年齢調整を実施。

BMI 値（25kg/m²以上）：男性の 40 歳～64 歳が埼玉県、全国に比べて高い傾向にある。

HbA1c（5.6%以上）：男女ともに埼玉県、全国と比較すると高い傾向にある。

収縮期血圧（130mmHg 以上）：65 歳～74 歳の割合が男女ともに約 50%である。

LDL コレステロール（120mg/dL 以上）：男女とも埼玉県及び全国と同水準である。また、男女別に比較すると女性の方が高い。

③ 生活習慣の状況

		男性						女性					
		40 歳～64 歳			65 歳～74 歳			40 歳～64 歳			65 歳～74 歳		
		上里町	埼玉県	全国	上里町	埼玉県	全国	上里町	埼玉県	全国	上里町	埼玉県	全国
喫煙		34.4%	35.6%	33.4%	18.8%	19.1%	19.3%	14.5%	11.8%	10.6%	2.9%	4.5%	3.9%
1 回 30 分以上の運動習慣なし		66.4%	68.0%	68.5%	53.7%	49.8%	52.9%	66.0%	71.3%	72.8%	48.0%	51.6%	56.1%
睡眠不足		23.5%	31.0%	29.4%	18.5%	20.6%	20.6%	27.8%	33.5%	32.0%	20.8%	26.2%	25.3%
飲酒	毎日飲酒	45.1%	39.7%	40.5%	45.2%	44.9%	45.7%	15.8%	15.5%	15.2%	8.6%	10.3%	9.4%
	時々飲酒	22.0%	25.1%	25.5%	20.2%	22.7%	22.4%	21.2%	26.8%	26.2%	20.1%	20.7%	20.2%
	飲まない	32.9%	35.1%	33.9%	34.6%	32.4%	31.9%	63.0%	57.7%	58.6%	71.3%	69.0%	70.5%

国保データベース（KDB）システム「質問票調査の状況」について、地方自治体における生活習慣病関連の健康課題把握のための参考データ・ツール集を用いて年齢調整を実施。

喫煙：割合を埼玉県及び全国と比較すると、40 歳～64 歳の女性は高い傾向にある。男女別では男性の喫煙者の割合が高い。

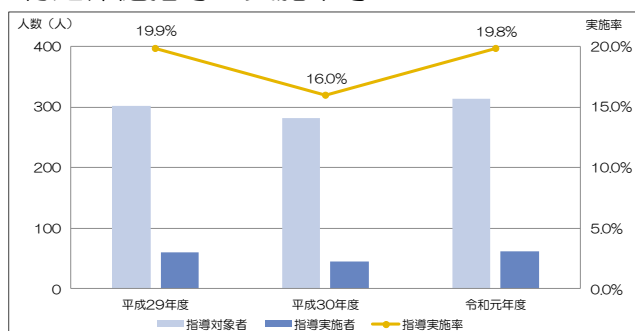
1 回 30 分以上の運動習慣なし：割合を埼玉県及び全国と比較すると、65 歳～74 歳の男性が高いが、それ以外は低い。男女別に比較すると女性の運動習慣が男性に比べて低い。

睡眠不足：埼玉県及び全国と比較すると、男女ともに低い。男女別に割合を比較すると女性の方が高くなっている。

飲酒（「毎日飲酒」「時々飲酒」「飲まない」）：埼玉県及び全国と比較すると、男性の 40 歳～64 歳は若干高いが、概ね同水準である。男女別に比較すると、「毎日飲酒」の割合が男性の方が高く、65 歳～74 歳では約 5 倍の差がある。

④ 特定保健指導実施率

■ 特定保健指導の実施率等



※特定健診等データ管理システム 「特定健診・特定保健指導実施結果総括表」より

令和元年度の実施率は 19.8%と前年度に比べて約4%上昇している。埼玉県や全国に比べて実施率は高い傾向にある。

目標とした実施者数 170 人、実施率 60%は達成できていない。

(2) 医療情報の分析

① 医療基礎情報

■ 医療基礎情報

区 分	上里町	埼玉県	全 国
1,000 人あたり			
診療所数	2.9	2.4	3.4
医師数(人)	2.3	6.9	10.7
レセプト数(件)	666.8	639.5	682.3
外来レセプト数(件)	16.3	15.1	18.7
入院レセプト数(件)	683.0	654.6	701.0
1 件あたり			
医療費(円)	36,210	36,020	37,230
外 来			
外来費用の割合 ※1	62.4%	62.6%	59.4%
1 件当たり医療費(円)	23,160	23,100	22,710
1 人当たり医療費(円)	15,440	14,770	15,500
1 日当たり医療費(円)	14,750	15,170	14,960
1 件当たり受診回数	1.6	1.5	1.5
入 院			
入院費用の割合 ※2	37.6%	37.4%	40.6%
1 件当たり医療費(円)	571,470	583,320	567,030
1 人当たり医療費(円)	9,290	8,810	10,600
1 日当たり医療費(円)	34,830	39,290	36,070
1 件当たり在院日数	16.4	14.8	15.7

※国保データベース (KDB) システム 「地域の全体像の把握」より

※1 「外来費用の割合 = 外来レセプトの総点数 ÷ 医科レセプトの総点数」で算出。

※2 「入院費用の割合 = 入院レセプトの総点数 ÷ 医科レセプトの総点数」で算出。

1,000 人あたりの診療所数は埼玉県に比べると多いが、全国に比べると少ない。また、医師数は埼玉県、全国に比べて少ない。

1 件あたりの医療費は 6,210 円で埼玉県とは同水準である。

外来・入院費用の割合は埼玉県と同水準で、全国と比較すると外来費用の割合が高く、入院費用の割合は低い傾向にある。外来の 1 件あたりの受診回数は埼玉県、全国と同水準だが、入院の 1 件当たり在院日数は埼玉県、全国に比べて多い。

疾病項目ごとの年齢別の医療費の上位5疾病をみると、男女共に24歳までは「呼吸器系の疾患」が高く、25歳以降ではメンタル系の疾患である「精神及び行動の障害」の医療費が高くなっている。60歳以降では、男女共に「循環器系の疾患」「新生物」「内分泌、栄養及び代謝疾患」の医療費が高い。

男性の疾病項目ごとの年齢別の医療費の上位5疾病を平成28年度のデータヘルス計画策定時と比較すると、「新生物」の若い世代での医療費が増えている。

女性の疾病項目ごとの年齢別の医療費の上位5疾病を見ると、30歳未満では「呼吸器系の疾患」の医療費が高く、30歳から59歳では「精神及び行動障害」が上位に入っている。また、50代から「筋骨格系及び結合組織の疾患」の医療費が増えている。

年齢階層	男性		女性	
	第1位	第2位	第1位	第2位
0歳～4歳	X. 呼吸器系の疾患	XⅡ. 皮膚及び皮下組織の疾患	X. 呼吸器系の疾患	XⅡ. 皮膚及び皮下組織の疾患
5歳～9歳	Ⅱ. 新生物	X. 呼吸器系の疾患	Ⅱ. 新生物	X. 呼吸器系の疾患
10歳～14歳	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動障害	X. 呼吸器系の疾患	Ⅳ. 内分泌、栄養及び代謝疾患
15歳～19歳	X. 呼吸器系の疾患	XⅨ. 損傷、中毒及びその他外因の影響	X. 呼吸器系の疾患	Ⅵ. 神経系の疾患
20歳～24歳	X. 呼吸器系の疾患	Ⅵ. 神経系の疾患	XⅣ. 腎尿路生殖器系の疾患	X. 呼吸器系の疾患
25歳～29歳	Ⅱ. 新生物	V. 精神及び行動障害	V. 精神及び行動障害	X. 呼吸器系の疾患
30歳～34歳	Ⅱ. 新生物	V. 精神及び行動障害	Ⅱ. 新生物	V. 精神及び行動障害
35歳～39歳	XⅣ. 腎尿路生殖器系の疾患	V. 精神及び行動障害	XⅣ. 腎尿路生殖器系の疾患	V. 精神及び行動障害
40歳～44歳	XⅣ. 腎尿路生殖器系の疾患	Ⅸ. 循環器系の疾患	V. 精神及び行動障害	X. 呼吸器系の疾患
45歳～49歳	V. 精神及び行動障害	Ⅱ. 新生物	Ⅱ. 新生物	V. 精神及び行動障害
50歳～54歳	V. 精神及び行動障害	Ⅱ. 新生物	V. 精神及び行動障害	Ⅱ. 新生物
55歳～59歳	Ⅸ. 循環器系の疾患	XⅣ. 腎尿路生殖器系の疾患	XⅣ. 腎尿路生殖器系の疾患	V. 精神及び行動障害
60歳～64歳	Ⅸ. 循環器系の疾患	Ⅳ. 内分泌、栄養及び代謝疾患	Ⅸ. 循環器系の疾患	Ⅳ. 内分泌、栄養及び代謝疾患
65歳～69歳	Ⅱ. 新生物	Ⅸ. 循環器系の疾患	Ⅱ. 新生物	Ⅸ. 循環器系の疾患
70歳～	Ⅱ. 新生物	Ⅸ. 循環器系の疾患	XⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患	Ⅸ. 循環器系の疾患

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成31年2月～令和2年1月診療分(12カ月分)。

③ 疾病別医療費統計

疾病項目大分類毎に、医療費や患者数、患者一人当たり医療費を算出すると、「循環器系の疾患」「新生物」「内分泌、栄養及び代謝疾患」「腎尿路生殖器系の疾患」「筋骨格系及び結合組織の疾患」「精神及び行動の障害」「呼吸器系の疾患」が上位に入ることが確認できた。これらの疾病について、疾病項目中分類ごとにも医療費、患者数、患者一人当たり医療費を集計する。

● 循環器系の疾患

大分類による医療費、患者数、患者一人あたりの医療費

	医療費	患者数	患者一人あたりの医療費
金額・人数	311,068,840 円	2,986 人	104,176 円
順位	2 位	4 位	4 位

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月診療分(12 カ月分)。

中分類による医療費（上位 3 疾病）

順位	疾病名	医療費	構成比
1	高血圧性疾患	94,389,810 円	30.3%
2	その他の心疾患	82,697,630 円	26.6%
3	虚血性心疾患	40,622,130 円	13.1%

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月診療分(12 カ月分)。

中分類による患者数（上位 3 疾病）

順位	疾病名	患者数	構成比
1	高血圧性疾患	2,220 人	74.3%
2	その他の心疾患	1,067 人	35.7%
3	虚血性心疾患	621 人	20.8%

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月診療分(12 カ月分)。

中分類による患者一人当たり医療費（上位 3 疾病）

順位	疾病名	患者一人当たり医療費
1	脳内出血	364,206 円
2	くも膜下出血	208,577 円
3	その他の心疾患	77,505 円

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月診療分(12 カ月分)。

医療費が第 2 位の「循環器系の疾患」について中分類別にみると、「高血圧性疾患」の医療費が約 9,439 万円で約 30%を占めており、患者数も 2,220 人と最も多い。次いで心筋症や心不全が含まれる「その他の心疾患」医療費の構成比が約 26.6%と高く、この 2 疾病で全体の半数以上を占める。患者一人あたりの医療費は脳内出血が約 36 万円で最も高額である。

● 新生物

大分類による医療費、患者数、患者一人あたりの医療費

	医療費	患者数	患者一人あたりの医療費
金額・人数	378,544,730 円	1,790 人	211,478 円
順位	1 位	10 位	1 位

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月診療分(12 カ月分)。

中分類による医療費（上位 3 疾病）

順位	疾病名	医療費	構成比
1	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	117,024,910 円	30.9%
2	気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	77,431,810 円	20.5%
3	良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	32,552,180 円	8.6%

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月診療分(12 カ月分)。

中分類による患者数（上位 3 疾病）

順位	疾病名	患者数	構成比
1	その他の悪性新生物＜腫瘍＞	848 人	47.4%
2	良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	811 人	45.3%
3	胃の悪性新生物＜腫瘍＞	316 人	17.7%

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月診療分(12 カ月分)。

※複数の疾病に罹患している患者がいる為、同一の患者が複数の疾病それぞれで集計される場合がある。また、構成比は中分類の各疾病の患者数／大分類「新生物」の患者数の為、合計は 100%にならない。

中分類による患者一人あたり医療費（上位 3 疾病）

順位	疾病名	患者一人あたり医療費(円)
1	白血病	758,358
2	悪性リンパ腫	680,818
3	気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	387,159

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月診療分(12 カ月分)。

医療費が第 1 位で、患者数が第 10 位である「新生物」について中分類別にみると、前立腺がん等が含まれる「その他の悪性新生物＜腫瘍＞」の医療費が約 1 億 1,702 万円で 30.9%を占めている。次いで、「気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞」が 20.5 と高く、この 2 疾病の割合が全体の約半数を占めている。

患者数は、「その他の悪性新生物＜腫瘍＞」と「良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞」がそれぞれ 800 名以上と多く、「新生物」の患者のうち約半数が罹患している。

患者一人あたりの医療費は、「白血病」が約 76 万円で最も高く、平成 28 年度のデータヘルス計画策定時に比べて、約 36 万円増えている。

● 内分泌，栄養及び代謝疾患

大分類による医療費、患者数、患者一人あたりの医療費

	医療費	患者数	患者一人あたりの医療費
金額・人数	224,226,780 円	3,394 人	66,066 円
順位	4 位	3 位	8 位

中分類による医療費（上位3疾病）

順位	疾病名	医療費	構成比
1	糖尿病	116,985,800 円	52.2%
2	脂質異常症	66,407,700 円	29.6%
3	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	28,025,320 円	12.5%

中分類による患者数（上位3疾病）

順位	疾病名	患者数	構成比
1	糖尿病	2,320 人	68.4%
2	脂質異常症	1,873 人	55.2%
3	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	999 人	29.4%

中分類による患者一人当たり医療費（上位3疾病）

順位	疾病名	患者一人当たり医療費
1	糖尿病	50,425 円
2	脂質異常症	35,455 円
3	その他の内分泌，栄養及び代謝疾患	28,053 円

医療費が第4位で、患者数が第3位である「内分泌，栄養及び代謝疾患」について中分類別にみると、「糖尿病」の医療費が約1億1,699万円で、全体の52.2%を占めている。次いで「脂質異常症」の医療費が6,641万円と高額になっている。この二疾病が「内分泌，栄養及び代謝疾患」に関する医療費の約8割を占めている。

患者数では、「糖尿病」が2,320人、「脂質異常症」が1,873人となっている。

平成28年度のデータヘルス計画策定時と同様に糖尿病の医療費割合が半数を超えている（前回の医療費の内訳は51.1%で、医療費は121,465,970円）。また、糖尿病の患者数は若干減っているものの、2,320人と多いことがわかる（前回は2,389人）。

● 腎尿路生殖器系の疾患

大分類による医療費、患者数、患者一人あたりの医療費

	医療費	患者数	患者一人あたりの医療費
金額・人数	229,888,710	1,711	134,359
順位	3 位	11 位	3 位

中分類による医療費（上位3疾病）

順位	疾病名	医療費	構成比
1	腎不全	179,357,200 円	78.0%
2	その他の腎尿路系の疾患	16,257,950 円	7.1%
3	前立腺肥大（症）	12,868,170 円	5.6%

中分類による患者数（上位3疾病）

順位	疾病項目	患者数	構成比
1	その他の腎尿路系の疾患	962 人	56.2%
2	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	327 人	19.1%
3	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	297 人	17.4%

中分類による患者一人当たり医療費（上位3疾病）

順位	疾病名	患者一人当たり医療費
1	腎不全	1,080,465 円
2	前立腺肥大（症）	43,621 円
3	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	27,000 円

「腎不全」の医療費が約 1 億 7,936 万円（78.0%）を占め、患者一人当たり医療費でも、約 108 万円と最も高額である。「腎不全」の中には人工透析患者が含まれており、透析患者の一人当たり医療費は約 531 万円である。また、透析患者の起因をみると、糖尿病性腎症Ⅱ型糖尿病が27人で約63%を占めている。

■透析患者の医療費

透析患者数	医療費（円）			患者一人当たり医療費（円）		
	透析関連	透析関連以外	合計	透析関連	透析関連以外	合計
43 人	188,364,530	40,364,850	228,729,380	4,380,570	938,717	5,319,288

透析患者の起因	透析患者数	割合	医療費（円）			患者一人当たり医療費（円）		
			透析関連	透析関連以外	合計	透析関連	透析関連以外	合計
糖尿病性腎症Ⅱ型糖尿病	27 人	62.8%	118,262,830	21,060,460	139,323,290	4,380,105	780,017	5,160,122

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成31年2月～令和2年1月診療分(12カ月分)。

※対象診療年月内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計。

● 筋骨格系及び結合組織の疾患

	医療費	患者数	患者一人あたりの医療費
金額・人数	171,882,080 円	2,725 人	63,076 円
順位	5 位	5 位	9 位

中分類による医療費（上位3疾病）

順位	疾病項目	医療費	構成比
1	関節症	51,043,990 円	29.7%
2	脊椎障害（脊椎症を含む）	27,052,190 円	15.7%
3	骨の密度及び構造の障害	23,725,700 円	13.8%

中分類による患者数（上位3疾病）

順位	疾病名	患者数	構成比
1	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	1,072 人	39.3%
2	腰痛症及び坐骨神経痛	929 人	34.1%
3	脊椎障害（脊椎症を含む）	768 人	28.2%

中分類による患者一人あたり医療費（上位3疾病）

順位	疾病名	患者一人あたり医療費
1	関節症	74,954 円
2	その他の脊柱障害	57,050 円
3	炎症性多発性関節障害	45,053 円

医療費が第5位であり、60歳以上の女性で医療費の割合の高い「筋骨格系及び結合組織の疾患」について中分類別にみると、「関節症」の医療費が5,104万円で29.7%を占めている。次いで「脊椎障害（脊椎症を含む）」「骨の密度及び構造の障害」の医療費が多くなっている。

患者数は「その他の筋骨格系及び結合組織の疾患」「腰痛症及び坐骨神経痛」「脊椎障害（脊椎症を含む）」が多い。

● 精神及び行動の障害

	医療費	患者数	患者一人あたりの医療費
金額・人数	158,383,320 円	875 人	181,010 円
順位	6 位	14 位	2 位

中分類による医療費（上位3疾病）

順位	疾病名	医療費	構成比
1	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	73,872,790 円	46.6%
2	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	32,034,000 円	20.2%
3	その他の精神及び行動の障害	17,532,480 円	11.1%

中分類による患者数（上位3疾病）

順位	疾病名	患者数	構成比
1	神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	503 人	57.5%
2	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	404 人	46.2%
3	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	206 人	23.5%

中分類による患者一人当たり医療費（上位3疾病）

順位	疾病名	患者一人当たり医療費
1	知的障害＜精神遅滞＞	390,877 円
2	統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害	358,606 円
3	その他の精神及び行動の障害	196,994 円

患者一人当たり医療費が第2位で、25歳～59歳の医療費割合が高い「精神及び行動の障害」について中分類別にみると、「統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害」の医療費が7,387万円で46.6%を占めている。平成28年度のデータヘルス計画策定時と同様の傾向だったが、医療費は前回の約1億200万円に比べて約3,000万円減っており、割合でも前回の56.5%に比べて約10%減っていることがわかる。

患者一人当たり医療費は、「知的障害＜精神遅滞＞」が約39万円、「統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害」が約36万円となっている。

● 呼吸器系の疾患

	医療費	患者数	患者一人あたりの医療費
金額・人数	136,413,850 円	3,812 人	35,785 円
順位	9 位	1 位	14 位

中分類による医療費（上位3疾病）

順位	疾病項目	医療費	構成比
1	その他の呼吸器系の疾患	33,793,540 円	24.8%
2	アレルギー性鼻炎	22,231,360 円	16.3%
3	喘息	20,477,320 円	15.0%

中分類による患者数（上位3疾病）

順位	疾病項目	患者数	構成比
1	アレルギー性鼻炎	1,948 人	51.1%
2	その他の急性上気道感染症	1,798 人	47.2%
3	急性気管支炎及び急性細気管支炎	1,555 人	40.8%

中分類による患者一人当たり医療費（上位3疾病）

順位	疾病項目	患者一人当たり医療費
1	慢性閉塞性肺疾患	49,083 円
2	肺炎	33,013 円
3	その他の呼吸器系の疾患	25,163 円

医療費が第9位、患者数が第1位である「呼吸器系の疾患」について中分類別にみると、「その他の呼吸器系の疾患」の医療費が約3,379万円で24.8%を占めている。

患者数は、「アレルギー性鼻炎」が1,948人、次いで「その他の急性上気道感染症」が1,798人となっている。

④ 1件あたりの点数が5万点以上の高額レセプトの原因となる疾病傾向

「白血病」「脳内出血」の患者一人当たり医療費が高くなっている。また、「ウィルス性肝炎」と「知的障害＜精神遅滞＞」は、前回と同様に高額レセプトの要因になっている。

■高額レセプトの要因となる主な疾病

中分類疾病項目	患者数	医療費	患者一人当たり 医療費
白血病	3人	17,297,420円	5,765,807円
脳内出血	6人	25,111,130円	4,185,188円
ウィルス性肝炎	4人	10,126,750円	2,531,688円
知的障害＜精神遅滞＞	2人	4,992,040円	2,496,020円
悪性リンパ腫	9人	22,138,400円	2,459,822円
気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	19人	39,086,340円	2,057,176円

※医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成31年2月～令和2年1月診療分(12カ月分)。

⑤ 医療機関受診状況

医療機関への過度な受診の可能性がある重複受診者数や頻回受診者数、過度な服薬の可能性がある重複服薬者数は以下のとおりである。一定数以上の対象者がいることがわかる。

■重複受診、頻回受診、重複服薬の対象者数

	重複受診者数	頻回受診者数	重複服薬者数
12カ月間の延べ人数	65人	250人	276人
12カ月間の実人数	45人	111人	153人

※レセプトデータは医科（DPC含む）、調剤の電子レセプトを集計。

対象診療年月は平成31年2月～令和2年1月診療分(12カ月分)。

※重複服薬者数…1カ月間に、同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える患者を対象とする。

⑥ 後発医薬品普及状況

後発医薬品（以下、ジェネリック医薬品）普及状況は平成 28 年度のデータヘルス計画策定時に比べて 4.5%上昇、数量ベースでみると 17.3%上昇している。

■後発医薬品普及状況（平均値）

	平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月	平成 28 年度のデータヘルス計画策定時
金額ベース	17.7%	12.2%
数量ベース	78.5%	61.2%

※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月診療分(12 カ月分)。

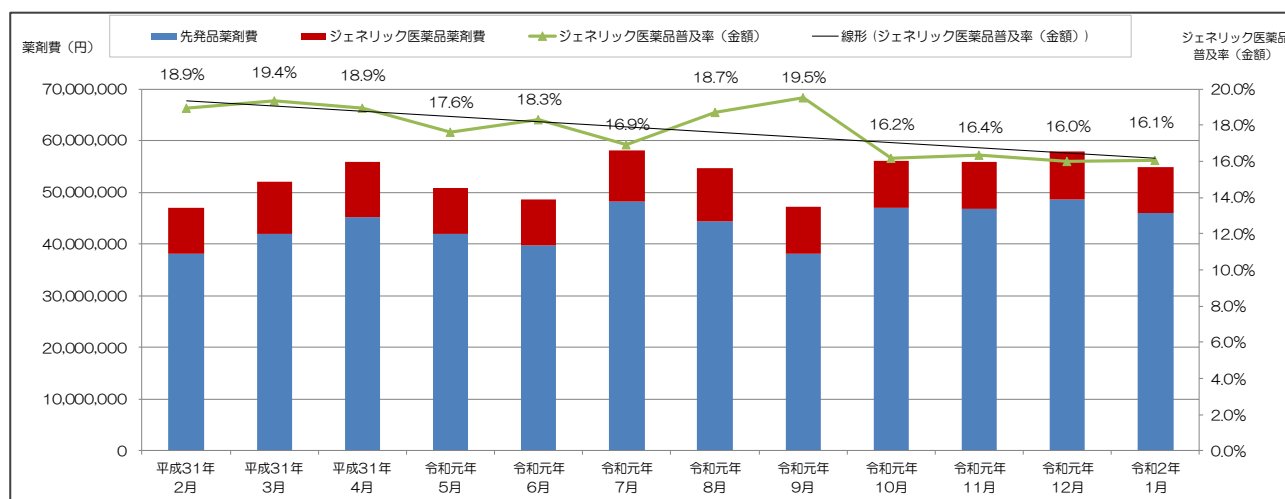
※ジェネリック医薬品普及率

…ジェネリック医薬品薬剤数量／(先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量 + ジェネリック医薬品薬剤数量)

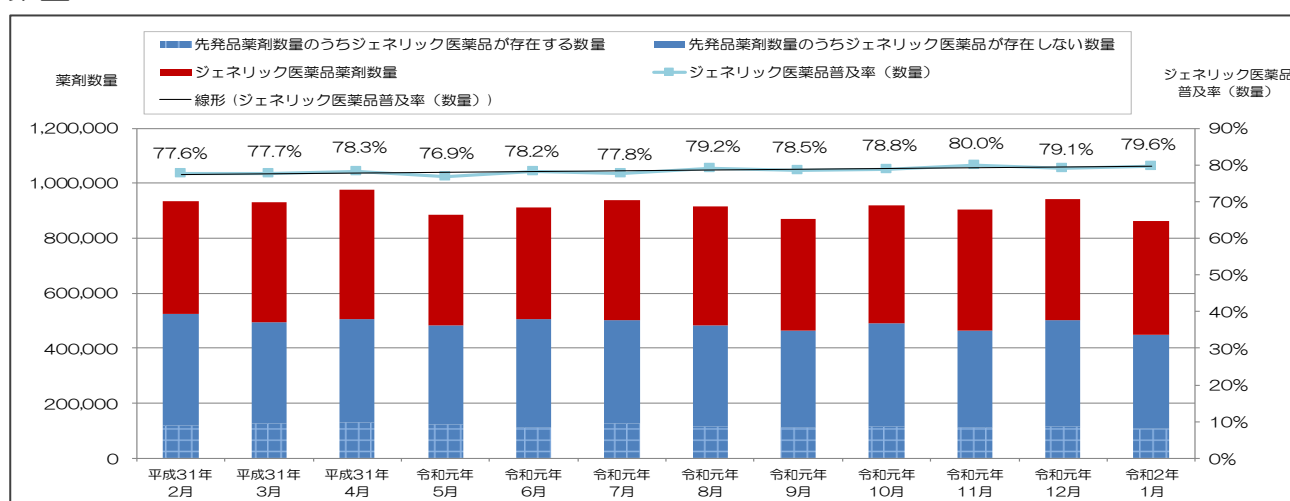
先発品のうちジェネリック医薬品と同額又は薬価が低いもの、ジェネリック医薬品のうち先発医薬品と同額又は薬価が高いものは集計対象外となります

■後発医薬品普及状況（月別）

金額ベース



数量ベース



※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成 31 年 2 月～令和 2 年 1 月診療分(12 カ月分)。

※ジェネリック医薬品普及率

…ジェネリック医薬品薬剤数量／(先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量 + ジェネリック医薬品薬剤数量)

先発品のうちジェネリック医薬品と同額又は薬価が低いもの、ジェネリック医薬品のうち先発医薬品と同額又は薬価が高いものは集計対象外となります。

⑦ 特定健康診査及びレセプトによる指導対象者の状況（40 歳以上）

特定健康診査の受診状況と医療機関への通院状況から、被保険者を分析した。

「健診未受診/生活習慣病未治療者」2,819 人

特定健康診査を未受診で、医療機関への受診も確認できない為、健康状態が不明な人達である。まずは、特定健康診査の受診が必要である。平成28年度のデータヘルス策定時に比べて200人増えている。

「健診異常値放置受診勧奨対象者」264 人

特定健康診査の結果値が受診勧奨領域にあるが、生活習慣病で医療機関へ通院していない対象者である。平成28年度のデータヘルス策定時に比べて61人減少している。

「治療中断者」27 人

生活習慣病で医療機関を通院していたが、治療行為を中断している人達である。平成28年度のデータヘルス策定時に比べて36人減少している。

⑧ 特定健康診査受診有無による医療費の状況

特定健康診査の受診者と未受診者の一人当たり医療費を比較すると、疾病の種類（高血圧・脂質異常症・糖尿病）に関わらず、受診者の一人当たり医療費が低いことが確認できた。引続き、特定健康診査の受診勧奨を実施することが有効であると考えられる。

■ 特定健康診査受診有無による医療費の状況

【特定健康診査未受診者】

罹患状態 (投薬のある冠者)	患者数※1	医療費※2		医療費合計	患者1人当たり 医療費
		入院	入院外		
1 疾病患者合計	856 人	164,897,890 円	297,712,080 円	462,609,970 円	540,432 円
2 疾病併存患者合計	656 人	111,896,040 円	275,290,650 円	387,186,690 円	590,224 円
3 疾病併存患者	188 人	32,853,890 円	106,078,980 円	138,932,870 円	739,005 円

※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成31年2月～令和2年1月診療分(12カ月分)。

※健診データは平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)を集計。

※患者数…該当傷病名で投薬のある患者のみ集計する。

※医療費…対象診療年月における該当患者の医療費全体。生活習慣病に関する医療費に限らない。”

【特定健康診査受診者】

罹患状態 (投薬のある冠者)	患者数※1	医療費※2		医療費合計	患者1人当たり 医療費
		入院	入院外		
1 疾病患者合計	399 人	30,439,980	86,206,380	116,646,360	292,347
2 疾病併存患者合計	249 人	25,604,240	66,255,230	91,859,470	368,914
3 疾病併存患者	59 人	7,190,830	22,699,570	29,890,400	506,617

※レセプトデータは医科、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は平成31年2月～令和2年1月診療分(12カ月分)。

※健診データは平成31年4月～令和2年3月健診分(12カ月分)を集計。

※患者数…該当傷病名で投薬のある患者のみ集計する。

※医療費…対象診療年月における該当患者の医療費全体。生活習慣病に関する医療費に限らない。”

(3) 介護情報の分析

令和2年3月末時点の介護認定者数は989人で、平成25年3月末に比べて129人増加している。中でも要介護1の認定者が多い。また、介護認定率は12.2%で、平成25年3月末から1.5ポイント減少している。要介護（支援）認定者の有病状況は、心臓病や高血圧症の有病率が50%以上である。令和元年度の介護給付費の状況をみると、一件当たり給付費は埼玉県及び全国と比較して高い傾向にある。

■介護保険認定者数の推移

	平成25年 3月末	平成26年 3月末	平成27年 3月末	平成28年 3月末	平成29年 3月末	平成30年 3月末	令和元年 3月末	令和2年 3月末時点
要支援1	124人	131人	137人	124人	87人	108人	94人	97人
要支援2	110人	138人	139人	149人	114人	127人	120人	121人
要介護1	199人	204人	218人	238人	254人	240人	273人	253人
要介護2	109人	117人	123人	131人	139人	139人	145人	158人
要介護3	84人	93人	109人	115人	121人	134人	127人	141人
要介護4	132人	125人	121人	112人	116人	139人	131人	127人
要介護5	102人	90人	84人	72人	81人	79人	88人	92人
合計	860人	898人	931人	941人	912人	966人	978人	989人

※地域包括ケア「見える化」システム 「要介護・要支援認定者数、要介護・要支援認定率の推移」より

■介護認定率の推移

	平成25年 3月末	平成26年 3月末	平成27年 3月末	平成28年 3月末	平成29年 3月末	平成30年 3月末	令和元年 3月末	令和2年 3月末時点
上里町	13.7%	13.6%	13.5%	13.0%	12.1%	12.4%	12.4%	12.2%
埼玉県	13.7%	13.9%	14.1%	14.3%	14.4%	14.6%	15.0%	15.4%
全国	17.6%	17.8%	17.9%	17.9%	18.0%	18.0%	18.3%	18.5%

※地域包括ケア「見える化」システム 「要介護・要支援認定者数、要介護・要支援認定率の推移」より

■要介護（支援）認定者の疾病別有病状況（令和元年度）

	糖尿病	高血圧症	脂質異常症	心臓病	脳疾患	悪性新生物	筋・骨格	精神
上里町	21.3%	51.2%	24.9%	58.7%	24.8%	10.3%	48.2%	35.1%
埼玉県	22.7%	51.8%	28.5%	58.2%	24.1%	10.9%	49.9%	35.6%
全国	23.0%	51.7%	30.1%	58.7%	24.0%	11.0%	51.6%	36.4%

※国保データベース（KDB）システム 「地域の全体像の把握」より

■介護給付費の状況（令和元年度）

	給付費	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
上里町	73,938円	8,880円	17,377円	45,170円	54,471円	108,949円	135,385円	144,683円
埼玉県	59,738円	10,819円	13,800円	35,313円	45,901円	78,802円	101,638円	112,452円
全国	61,336円	9,825円	13,241円	37,931円	47,085円	79,808円	106,950円	119,410円

※国保データベース（KDB）システム 「地域の全体像の把握」より

(4) 分析結果のまとめ

上述の(1)～(3)の分析結果について、下記に示します。

■分析結果のまとめ

分析結果のまとめ	
(1) 健康情報の分析のまとめ	
① 特定健診の実施状況	受診率は年々上昇しているが、目標とした60%には達していない。 全国と比較すると受診率は高い傾向である。60歳以上の受診率は高く、男女別にみると女性の受診率が高い。
② 有所見者の状況	全国、埼玉県と比較すると、血糖(HbA1c)の有所見者の割合が高い。 BMI、収縮期血圧、LDL コレステロールの有所見者割合は、年齢や性別で若干の違いはあるが、全国、埼玉県と比較するとほぼ同水準である。
③ 生活習慣の状況	全国、埼玉県と比較すると40歳～64歳女性の喫煙率が高く、睡眠不足者の割合は低い傾向にある。また、男性の喫煙者の割合が女性の2倍以上になっている。
(2) 医療情報の分析のまとめ	
① 全 体	外来の1件あたり医療費は全国、埼玉県よりも高い。入院は全国より高いが、埼玉県よりも低い。入院の1件あたり在院日数は、全国、埼玉県よりも多く、1日当たりの医療費は低い。
② 疾病状況	疾病別の医療費割合を見ると、平成28年度のデータヘルス計画策定時と同様に「循環器系の疾患」「新生物」の医療費が高い傾向にある。「新生物」の医療費は前回に比べて大幅に増加しており、一人当たりの医療費も最も高くなっている。 疾病別の患者数を見ると、「呼吸器系の疾患」「消化器系の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」の人数が多く、これは平成28年度のデータヘルス計画策定時と同じ傾向である。 年齢階層別の疾病別医療費は、若い世代では「呼吸器系の疾患」、25歳以降では「精神及び行動の障害」の医療費が高い。60歳以降では「循環器系の疾患」「新生物」「内分泌、栄養及び代謝疾患」の医療費が高い。 年齢階層別の疾病別医療費を男女別にみると、男性は若い世代で「新生物」の医療費が増加している。女性は50代から「筋骨格系及び結合組織の疾患」の医療費が増加する傾向がみられる。 平成28年度のデータヘルス計画策定時に比べて、人工透析の患者数が約2割減っている。

分析結果のまとめ	
	③ 医療機関受診状況
	重複受診者数、頻回受診者数は減少しているが、重複服薬の対象者が前回に比べて増加している。
	特定健康診査の結果値は受診勧奨領域であるにも関わらず、医療機関へ通院していない健診異常値放置者（未治療者）や、生活習慣病で医療機関を通院していたが、治療行為を中断している治療中断者の人数は減少している。
	医療機関に通院しておらず、特定健康診査も受診していない対象者（健康状態が不明）の人数が増加している。
	④ ジェネリック医薬品の普及率
	ジェネリック医薬品の普及率は、数量ベースで 78.5%である。平成 28 年度のデータヘルス計画策定時の 61.2%と比較すると、大きく上昇している。
(3) 介護情報の分析のまとめ	
	① 全 体
	介護認定者数は年々増加しており、令和 2 年 3 月末時点では 989 人である。介護度別に見ると、要介護 1 の人数が最も多い。
	② 疾病状況
	要介護（要支援）認定者の疾病別の有病率をみると、心臓病、高血圧症の有病率が高く、共に 50%を超えている。

第3章 取組の考察

1. 各事業の評価、考察

平成 28 年度のデータヘルス計画策定時に検討し実施してきた事業は以下のとおりである。各事業の実施状況や、第 2 章の結果を踏まえ、各事業の評価及び考察を行う。

実施事業・事業概要		対象	アウトプット	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元年度
①	特定健康診査 疾病の発症予防、早期発見のため健診を実施する	40 歳～74 歳 の被保険者	受診者数 3,300 人 受診率 60%	2,110 人 38.8%	2,064 人 39.4%	2,150 人 42.1%
	目標達成のための取組					
	・ 特定健康診査受診勧奨（ハガキ送付） 未受診者にハガキで受診勧奨を行う。	未受診者	送付件数 3,000 件 送付後の受診者数 1,400 人	153 件	656 件	4,043 件 459 人
	・ 特定健康診査受診勧奨（電話勧奨） 未受診者に対して保健師等が電話にて受診勧奨を行う。	未受診者	電話件数 150 件 電話後の受診率 50%	0 件	0 件	0 件
	・ 広報 ラジオ、テレビ、広報紙での PR を実施する。	町民全員	広報掲載件数 6 回	11 回	6 回	5 回
	・ イベントでの啓発 各種イベントで PR を実施する。	町民全員	イベント参加件数 2 回 (さくらまつり、ふれあいまつり等)	0 回	0 回	1 回
	・ 人間ドック助成 人間ドックの受診者に補助金を出す。	人間ドック受診者	受診者数 500 人	350 人	334 人	310 人
②	特定保健指導 生活習慣改善のための指導を実施する。	特定保健指導 対象者	実施者数 170 人 実施率 60%	60 人 19.9%	45 人 16.0%	62 人 19.8%
	目標達成のための取組					
	・ 特定保健指導利用勧奨（ハガキ送付） 未受診者にハガキで受診勧奨を行う。	未実施者	送付件数 85 件 送付後の受診率 50%	165 件 0.24%	132 件 0.76%	227 件 5.3%
③	糖尿病性腎症重症化予防対策事業 糖尿病性腎症重症化予防のための指導を実施する。	健診異常値の 被保険者	指導実施者数 60 人	4 人	9 人	1 人
	目標達成のための取組					
	・ 重症化予防指導（※） 糖尿病予防患者のうち、糖尿病関連の検査項目値が治療状況から選定して対象者に対して、専門職が6か月の面談指導と電話フォローを実施する。	糖尿病性 腎症患者	指導実施率 50%	100%	100%	(1 人) 100%
	・ 健診異常値未治療者への受診勧奨（※） 糖尿病関連の検査項目に異常値があるにも関わらず医療機関への受診が確認できない対象者にハガキや電話で受診勧奨を行う。	健康異常値 未治療者 (糖尿病)	送付件数 対象者全員 電話件数 対象者全員 勧奨後の受診率 50%	7.1%	21.9%	25.0%
	・ 治療中断者への受診勧奨（※） 糖尿病の治療を受けていたにも関わらず、一定期間医療機関への受診が確認できない対象者にハガキや電話で受診勧奨を行う。	治療中断者 (糖尿病)	送付件数 対象者全員 電話件数 対象者全員 勧奨後の受診率 50%	25%	0%	50%
④	多受診者指導 重複受診者、頻回受診者に対して面談指導と電話フォローを実施する。	重複受診者 頻回受診者	継続の実施者数 5 人	5 人	6 人	0 人
⑤	ジェネリック医薬品切り替え通知 先発医薬品の利用者のうち、ジェネリック医薬品通知により医療費の削減が見込まれる対象者へ送付する。	軽減額が一定以上 となる被保険者	送付件数 対象者全員	100%	100%	(229 人) 100%
⑥	がん検診 がんの早期発見、早期治療を図るために健診を実施する。	対象年齢の町民	・ 胃がん受診率 40% ・ 大腸がん受診率 40% ・ 肺がん受診率 40% ・ 乳がん受診率 50% ・ 子宮頸がん受診率 50%	9.6% 13.8% 20.8% 35.6% 33.1%	11.0% 14.6% 20.2% 40.2% 36.8%	10.8% 14.4% 19.8% 40.6% 43.2%

2. 中間評価後の事業実施について

前述の事業の評価、考察内容を踏まえ、今後の事業内容と目標を以下のとおり定める。

実施事業・事業概要		方向性	評価及び考察	対象	アウトプット
①特定健康診査		→継続	国が示す受診率（60.0%）にはまだまだ及ばないものの、平成 27 年度から連続して受診率向上しており、今後とも継続して取り組んでいく。	40 歳～74 歳の被保険者	受診者数 3,100 人 受診率 60%
目標達成のための取組	特定健康診査受診勧奨 （ハガキ送付）	↗継続	集団健診については毎年度定員以上の申し込みがあるものの、定員を増やすことが困難であるため、受診率向上には個別検診の受診勧奨をより効果的に実施する必要がある。人工知能（AI）を利用した、対象者個々に合わせた通知を適切な時期に送付することで効果を上げる。	未受診者	送付件数 5,000 件 送付後の受診者数 1,500 人
	特定健康診査受診勧奨 （電話勧奨）	×廃止	特定健康診査の受診勧奨はすべてハガキ送付で集約し取組を強化するため、電話による勧奨は見合わせる。	未受診者	
	広報	→継続	広報誌の他に町ホームページを活用し、情報提供を行う。	町民全員	広報誌、 町ホームページ 掲載件数 6 回
	イベントでの啓発	×廃止	イベントの実施自体が不透明であるため見合わせる。		
	人間ドック助成	→継続	個別受診と同様、人間ドックの利用勧奨に力を入れる必要がある。保険証郵送時に同封するリーフレットや広報誌等で助成事業について広報する。	人間ドック受診者	受診者数 500 人
②特定保健指導		→継続	保健指導の受診率については平成 28 年度から連続して受診率低下しており、保険者努力支援制度の中でも加点できていない部分で、対策を講じる必要がある。しかしマンパワー不足の面があり、保健指導の外部委託なども視野に入れた効果的な事業実施が必要と思われる。	特定保健指導対象者	実施者数 170 人 実施率 60%
た目標の達成取組の	特定保健指導受診勧奨 （ハガキ送付）	→継続	特定健康診査受診勧奨と同様に人工知能（AI）を利用し、年齢別・受診回数別等で対象者に合った通知を適切な時期に送付し、効果を上げる。	未実施者	送付件数 85 件 送付後の受診率 50%

2. 中間評価後の事業実施について

実施事業・事業概要		方向性	評価及び考察	対象	アウトプット
③糖尿病性腎症重症化予防対策事業		→継続	県が実施している事業に参画している。国保連や医師会と連携し、実施していく。	健診異常値の被保険者	指導実施者数 60 人
目標達成のための取組	重症化予防指導	→継続	同上	糖尿病性腎症患者	指導実施率 50%
	健診異常値未治療者への受診勧奨	→継続	同上	健診異常値未治療者（糖尿病）	送付件数 対象者全員 電話件数 対象者全員 勧奨後の実施率 50%
	治療中断者への受診勧奨	→継続	同上	治療中断者（糖尿病）	送付件数 対象者全員 電話件数 対象者全員 勧奨後の実施率 50%
	糖尿病についての知識普及・啓発	追加	特定健診受診後に HbA1c が 6%以上の人および希望者に糖尿病予防教室を実施し、生活習慣改善や医療受診勧奨などを行っている。コロナ禍では教室の開催が縮小または中止となっており、今後の実施方法について検討が必要である。	特定健診受診者のうち HbA1c6.0%以上の人	対象者全員
④多受診者指導		→継続	レセプトからの情報をもとに、ある一定の基準に該当する方に対して通知送付及び訪問を、国保連の保健師とともに実施している。柔道整復等の療養費について今後追加して取り組む。	重複受診者 頻回受診者 多剤処方者	対象件数 20 件 訪問件数 10 件
⑤ジェネリック医薬品切り替え通知		→継続	保険者努力支援制度の評価指標で、国の目標である、後発医薬品の使用割合（80%）を達成しており、今後も継続して取り組む。	軽減額が一定額以上となる被保険者	送付件数 対象者全員
⑥がん検診		→継続	節目年齢の住民に効果的な受診勧奨を行っている。乳がん検診、子宮頸がん検診は、少しずつ受診率が向上しているが、その他のがん検診は、横ばいとなっている。令和 2 年度より大腸がん検診を特定健診と同時実施とし、受診の利便性を図った。また、令和元年度より開始した「たまる健★幸マイレージ」事業では、検診でお得なポイントが付与されるため、受診率向上への相乗効果が期待される。	対象年齢の町民	胃がん受診率（40～69 歳）40% 大腸がん受診率（40～69 歳）40% 肺がん受診率（40～69 歳）40% 乳がん受診率（40～69 歳）50% 子宮頸がん受診率（20～69 歳）50%
⑦インセンティブ事業の推進		追加	検（健）診事業の受診率向上のため「たまる健★幸マイレージ」事業を推進していく。	20 歳以上の町民	登録者数 850 人

下記のアウトカム指標を設定し、事業を実施する。

アウトカム指標																			
①特定保健指導者の減少																			
特定健康診査受診者における特定保健指導対象者の割合の減少 ⇒ 10%未満 【現状】 平成 29 年度から令和元年度のアウトカム指標は、13～14%となっており 目標を達成していない。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>平成 29 年度</th><th>平成 30 年度</th><th>令和元年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特定健康診査受診者（人） A</td><td>2,110</td><td>2,064</td><td>2,150</td></tr> <tr> <td>特定保健指導対象者（人） B</td><td>302</td><td>282</td><td>313</td></tr> <tr> <td>割合（%） B/A</td><td>14.3</td><td>13.7</td><td>14.6</td></tr> </tbody> </table>					平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	特定健康診査受診者（人） A	2,110	2,064	2,150	特定保健指導対象者（人） B	302	282	313	割合（%） B/A	14.3	13.7	14.6
	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																
特定健康診査受診者（人） A	2,110	2,064	2,150																
特定保健指導対象者（人） B	302	282	313																
割合（%） B/A	14.3	13.7	14.6																
② 医療費の削減																			
○ジェネリック医薬品普及率の向上（数量ベースで 80%） ○糖尿病性腎症重症化予防対策事業による医療費削減（7,500 万円）																			

第4章 その他

1. データヘルス計画の評価・見直し

本計画は、広報、ホームページ等で公表する。

2. データヘルス計画の改定

実施事業における目的及び目標の達成状況について評価を行うこととし、達成状況により次年度実施計画の見直しを行う。本計画は、広報、ホームページ等で公表する。

3. 事業運営上の留意事項

(1) 各種検（健）診等の連携

特定健康診査の実施に当たっては、健康増進法及び介護保険法に基づき実施する検（健）診等とも可能な限り連携して実施するものとする。

(2) 健康づくり事業との連携

特定健康診査・特定保健指導は、被保険者のうち40歳から74歳までの方が対象になる。しかし、生活習慣病予防のためには、40歳より若い世代へ働きかけ、生活習慣病のリスクの周知や日々の生活スタイルを見直していくことが重要になる。そのためには、関係部署が実施する保健事業とも連携しながら、生活習慣病予防を推進していく必要がある。

4. 個人情報の保護

特定健康診査及び特定保健指導に関わる個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」「上里町 個人情報保護条例」に基づき管理する。

また、特定健康診査及び特定保健指導にかかわる業務を外部に委託する際も同様に取り扱われるよう委託契約書に定める。

上里町国民健康保険データヘルス計画（概要版）
令和3年3月

発行 上里町 健康保険課 医療年金係
住所 〒369-0392
埼玉県児玉郡上里町大字七本木 5518
電話 0495-35-1222